



土木学会調査研究委員会活動を通じた市民とのつながり

シビルNPO連携プラットフォーム サポーター

(鉄建建設株式会社) 酒井 喜市郎

シビルNPO連携プラットフォーム代表理事である山本卓朗氏が、鉄建建設社長を務めてこられた頃からの関係で、現在当NPOにサポーターとして参加しています。また長らく土木学会地下空間研究委員会の幹事長として委員会活動を牽引してきましたが、委員会活動でも市民とのつながりを意識しながら活動を行ってきました。今回はその内容を紹介し、皆さんの活動の参考になればと考えています。

土木学会というと、関係者から見ても少々近づきたい存在ですが、一般の市民から見れば別世界の集団と見られがちです。しかし土木工学が「Civil Engineering：市民工学」であることを考えれば、これは市民から見れば大きな損失です。我々土木技術者が研究し、答えを出してきたことをもっと実社会に役立てることが必要だという考えから、委員会では活動成果の一般市民への「普及」に力を入れてきました。活動の柱は大きく分類して3種類、それぞれ取り組み方は異なるものの、対象を一般市民として行う活動という意味では方向性は同じです。

(1) 夏休み親子見学会の実施

これは通常の見学会とは異なり、「みんなで触れよう、考えよう、想像しよう こんなにおもしろい地下空間」と題し、参加学習型



夏休み親子見学会

の方式をとっており、修了者には「地下空間こども博士」を授与しています。あわせて土木技術者の裾野を広げることにも目的としており、これまで12回開催し、今年も13回目の計画を進めています。

(2) 無料市民セミナー実施

地下空間の防災、人の行動心理、維持管理を中心とした市民向けのセミナーを全国各地で開催し、委員会活動で得られた知見を広く一般社会に開示し、市民との意見交換を含めて展開しています。特に人が係わる地下空間では、工学的な見地だけでは問題解決が不可能なことも多く、利用する市民の意識や行動にまで及んだ議論を交わしています。これまでに21回の開催を数え、これからも継続して行く予定です。

(3) マスメディアを利用した普及活動

テレビや新聞、書籍による地下空間の普及活動に力を入れています。地下空間への関心の高まりにより、各マスメディアからの協力が多く届き、その都度対応しています。特にこども向け題材については、地下空間への関心向上と、正しい理解を促すため力を入れて実施しており、これまで18回の協力を実施し、これからも継続していく予定です。



NHK 時論公論タイトルバック